

活動名	児童工作教室の拡大と環境美化及び、地域資源を活かしたふれあいイベントによる地域社会の絆づくり		団体名	晴海町・青社会
			地域	広島県呉市
			代表者	会長 山本 正
			支援金額	25万円
活動概要				
<p>地域の子供は地域の大人が守る、育てるために、地域社会の希薄な絆強化策のひとつとして、これまで「身近な環境改善」「子供達中心のふれあいイベント」「学童工作教室」等を展開している。</p> <p>平成20年度は、従来の活動を継続すると共に、18年度より始めた、子供達に人気の工作教室を、校区内のみでなく新たに、中央公民館、吉浦市民センターで開講など拡大し、多くの子供達にもものづくりの楽しさを体験させることができました。</p> <p>また、活動を推進する中で、青社会の得意とする手作り玩具を普及するために、市の関係部署と情報交換を行い、工作教室(ものづくり)と合わせて、玩具の正しい遊び方のコツや本当の楽しさを体得させる新たな展開が必要となり、年度の後半は指導員講習会や市の大型イベントで玩具の展示や遊び場提供も試行し好評を得ました。</p>				
<p>◆実施時期： 平成20年4月1日～21年2月28日 晴海町自治会館を中心とした町内及び校区内小学校、公民館、公園他</p>				
<p>◆参加人数： ・花まつり :250名 ・花火鑑賞会 :250名 ・環境美化行事 :200名 ・エコフェスタ :300名 ・工作教室関連 :600名 ・その他のイベント:650名</p>				
				参加総人員 2,250名



《第6回 花まつりの様子》



《町内夏休み工作教室》



《くれエコフェスタ》



《スーパーカー工作教室》

◆活動が関連する団体等、地域社会等に与えた影響

- ① 恒例の花まつり(第6回)を子供会の新入生歓迎会当日に合わせふれあいいきいきサロンとして、自治会と共催で行い、幅広い絆づくりに役立った。
- ② 安心、安全なまちづくりに役立つ花壇の維持管理ふれあい花壇は、町内の一斉手入れは毎月15日ですが、草花好きの会員は、毎日手入れに出てくださいっており、草花観賞に散歩する人などを含めると、花壇周辺は人影のたえる時間帯は少なく、安心、安全のまちづくりに役立っている。
- ③ 評価された工作教室や作品(手作り玩具)展示などの取り組み
 - ・ 工作教室は当初計画の7回に対し9回実施した。また他団体や、市の地域協働課の要請に対応するなど、活動範囲を広め21項目のボランティアを地道に行った。
 - ・ 小学生に対する工作難度の改善策として、事前に保護者の指導員講習会(夜間25名参加)を開催し、好評であった。
 - ・ 過去3年間の工作教室での人気作品12点をエコフェスタ、つばき会館、大和ミュージアム、市民協働センターで展示し、手作り玩具普及をPRした。
- ④ 青社会が地域の環境美化につとめ、ふれあいイベント花まつり(第6回)に発展させていることなどが評価され、市長表彰「呉市環境美化ボランティア団体表彰」を受賞した。
- ⑤ 町内の花壇で増えたジャーマンアイリス、イチハツの球根を市の公園緑地課の仲介で、“焼山”阿賀地区の花壇3地点に延べ約400球無償提供し、感謝された。
- ⑥ 青社会が開発したプラとんぼ(プラスチック板を羽根にした現代版竹トンボ)工作教室が話題になり、11月24日中国新聞朝刊に掲載された。
- ⑦ プラとんぼは、今後「呉市発の新しい青少年スポーツ」として、その普及が期待されている。

◆苦勞した点

- ① 物価高による予算面の苦勞
 - ・ 花の苗、値上りに対しては、自前の苗(さし木、われ生の苗他)や、時期遅れや傷み苗等の特価購入、切り戻し等の再生苗などで対応した。
 - ・ 工作材料のプラスチック板(PPシート)や、ハンマ・ペンチ等の工具類の大幅値上り(約3倍)に対しては値上り前の旧型品を扱う遠方の店を探して調達した。また、原紙モデルの再設計や纏め買いなどによるコストダウンに苦勞した。
- ② 教室の回数増加(9回/年)により、青社会工作指導員数の不足が生じたため、参加学童の保護者対象の指導員講習会を行い、カバーした。
指導員不足は、工作時間数不足とも関連があり、作品のシンプル化や技術的な難度改善、適正な工作時間、回数などトータルの見直しも今後必要。

◆今後の課題・発展の方向性

近年、学校の先生や保護者の多くが、学業中心で創造性を育てる「ものづくり体験」に理解不足の感があります。青社会は社会的使命感を持って下記課題に取り組みます。

- ① 手作り玩具の遊び方、楽しさ体験不足。
従来は玩具のものづくりに注力するあまり、遊び方のコツや、楽しさを体得するまで至らなかった点を反省し、今後は高校生ボランティアと協働で市のイベント会場で、「手作り玩具の遊び場」を設け、指導者を置いて、正しい遊び方、楽しさを体得させる。
[具体策の一例]
 - ・ くれ子供祭り 2009.5.4(月) 呉ポートピアパーク(呉市立高生と青社会の協働の遊び場予定)
 - ・ エコフェスタ 2009.10.3(土) 呉ポートピアパーク(会場のスペースを前年の2倍とし、遊び場確保予定)
- ② 工作指導員講習会などによる手作り玩具の普及
[具体策の一例]
 - ・ プラとんぼ工作指導員講習会 2009.4.12(日) くれ市民協働センター
 - ・ スーパーカー工作講習会 2009.4.26(日) くれ市民協働センター
- ③ 青社会手作り玩具の公民館巡回展示による普及 (2009.4月～予定)
- ④ これまで取り組んだ手作り玩具のブラッシュアップと新しい玩具の開発

◆活動を終えての感想・意見等

- ・ 町内の自治会活動のサポートからスタートした青社会は、この4年間、花壇の整備、拡張、維持管理に精進し、花まつりが地域の人気イベントのひとつとなったことを喜ぶと共に、青社会発足前の約13年間、細々ではあるが少人数で花壇をお世話くださった先輩たちの苦勞や思いを継続の力にしています。
- ・ 手作り玩具の工作教室は3年間で21回、約500人の子どもたちが参加しました。青社会開発のプラとんぼ、スーパーカー、動物の旗あげなど人気作品も生まれ、市のイベント会場や公民館などで展示や遊ばせるなど、新しい展開も動き出し、「継続は力なり」を実感しながら既に次年度活動の準備を進めています。
- ・ この一年間、私たちの活動が継続できたのは、マツダ財団様の青少年健全育成の精神と支援金のおかげであり、心から感謝しております。